

令和元年度 茨城県立農業大学校評価表

評価基準(達成度)	
A	100%以上の達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

重点目標	1 入学生の確保	3 進路指導の充実
	② 教育内容の充実・強化	4 学生の自治会活動の活性化

重点目標番号	現 状	課 題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
2	<p>1 本校は、農業及び農村社会を担う者を養成し、並びに農村地域において指導的役割を果たそうとする農業者等を育成するため、農業技術と経営管理能力を付与する教育を基本としている。</p> <p>本県には農業経営士や本校卒業生など優れた農業経営者が多いことから、学生の資質向上のために、これら関係者の協力を得られる環境にある。</p> <p>2 平成21年度の専修学校化以降、就職や大学編入学等を希望する非農家出身学生が増加しており、個人の進路に適合した資格取得や科目を用意する必要がある。</p> <p>○非農家出身学生数(養成課程) H21:25名, H26:27名, H27:37名, H28:41名 H29:34名, H30:41名 H31:38名</p> <p>3 女子の入学生が増加している。</p> <p>○女子学生数(養成課程) H21:5名, H26:11名, H27:18名, H28:17名 H29:9名, H30:16名 H31:18名</p>	<p>1 農業に関する幅広い視野と高度な技術・経営能力を有するなど、経営感覚に優れた農業振興に貢献する農業者等を養成する。</p>	<p>1 高度で専門的な技術や経営能力を取得するための教育の実施及び幅広い視野を有する農業者の育成支援</p>	<p>1 学生が高度で専門的な技術や経営能力を取得するための教育内容の充実 (1)【新規】生産から販売に至る一連の活動を体験できるカリキュラム「経営実践プロジェクト」を設定・実施(目標:特別講義5回, 実需者との商談1回)。</p> <p>(2)【継続】専門技術指導員などを招き、学生が行う卒業研究(農業部2年生, 園芸部1年生)に対する指導・助言等を実施(目標:農業部3回, 園芸部3回)。</p> <p>(3)【継続】派遣先選定にあたって、学生や関係機関と十分な協議を行い、先進農業派遣実習を充実(目標:検討会開催2回)。</p>	<p>(1)経営実践プロジェクトの特別講義・販売実習として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/15 「消費・流通ルートについてと付加価値を加えた品目販売について」園芸部1年生3名 ・7/22 特別講義「儲かる農業のための農作物流通の基礎と取り組むポイント」農業部98名 ・8/8 「カスミにおける地元野菜販売について」園芸部1年生1名 ・8/21 徳島県立農大視察「模擬会社の運営について」園芸部1年生3名 ・9/6 模擬商談(イオン4名, 東京本部1名, 農業部果樹コース4名) ・9/28 イオンスタイル南砂販売実習・都内市場調査(農業部7名) ・12/9 特別講義「販路の検討及び商品コンセプトの設定」園芸部1年施設野菜コース3名, 農業部1年露地野菜コース11名 ・12/17 販売実習反省会(イオン5名, 東京本部1名, 農業部果樹コース5名) ・1月～2月 ヨークベニマル坂東店での直売実習(次年度, 農大コーナー設置予定)(園芸部3名) <p>(2)1/15 農業部卒業研究発表会 1/30 園芸部卒業研究発表会 2/27 園芸部卒業研究計画検討会</p> <p>(3)4/22 担当者会議を開催, 学生や関係機関と協議し派遣先選定にあたりととも、事前指導を綿密に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業部: I 期 7/24～8/23 II 期 8/28～9/27 ・園芸部: 10/23～11/22 	B	<p>(1)【充実】商品設計から営業, 納品までの一連の事業活動を体験させる。寄り添い型講師による年間指導が必要。</p> <p>(2)【継続】引き続き卒業研究発表会へ講師を招き助言を受ける。</p> <p>(3)【充実】県農業法人協会と連携を強化し, 就農へ繋がるようマッチング機会を増やす。</p>	

重点 目標 番号	現 状	課 題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績 ※()は前年度実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
2				<p>(4)【継続】農業者等が運営している農場等を積極的に見学(目標:25ヶ所)。</p> <p>(5)【継続】就農に役立つ資格取得に向け、学生への働きかけを強化(小型建機, フォークリフト,刈払機, 危険物, 毒物劇物, 家畜人工授精師等)。</p> <p>(6)【継続】経営感覚の向上を図るため, 経営生産費や利益の考え方, 効率的な作業方法の解説を専攻実習や講義の中で実施(目標:8科目, 卒業研究)。</p> <p>(7)【充実】関係機関や民間との協力により実施するICTなど最新技術習得のための講義・実習の年度計画を作成(目標:8回以上)。</p> <p>(8)【充実】露地野菜コース圃場管理マニュアルを整備実践し, ASIAGAP 認証を取得。また, 他の学科コースにおいてGAP活動を実践。また, GAP指導者を養成(目標:露地野菜コース-国際的 GAP 認証, 指導者2名以上)。</p> <p>(9)【充実】農業の6次産業化教育の推進を図るため, サツマイモ用キュアリング庫, 干しいも用温熱乾燥機など, 5カ年計画に基づき, 計画的に教育施設を整備・充実。</p>	<p>(4)農業者等の農場を見学した(41回(農業部・研究科:38回, 園芸部:3回))</p> <p>(5)オリエンテーションで資格取得に関する情報を提供した(農業部:小型建機22名・刈払機42名・農業技術検定6名・大特39名・家畜人工授精師8名, 園芸部:小型建機9名, 刈払機18名, 危険物2名, 大特14名)。</p> <p>(6)農業経営概論, 畜産経営概論, 先進農業派遣実習, 卒業研究, 専攻実習, 栽培各論, 作物汎論, 園芸汎論, 畜産汎論計9科目を実施した。</p> <p>(7)民間企業の協力のもと, 年間計画を作成し, 次のとおり講義や実演を実施した(10回)。 ・4/23 全自動ネギ移植機 ・4/25 直進アシスト田植機 ・5/7 直進アシストトラクタ(サツマイモ) ・5/9 密苗田植機 ・5/28 茎葉菜類半自動移植機(サツマ) 7/2 営農支援システム ・7/4 AI養液土耕システム ・8/7 ドローン薬剤散布 ・9/4 食味収量コンバイン ・11/5 ネギ収穫機</p> <p>(8)GAP指導者養成研修へ職員2名参加。8/6 茨城大学GAP教育推進事例調査へ職員7名参加。7/31,8/28,9/25, 10/31ASIAGAP 認証審査のためのコンサル指導を受けた。12/5,6に ASIAGAP 認証審査を受審し, 不適合項目を一部受けたが, 改善・是正報告を行い, R2.1/5に認証取得した。</p> <p>(9)5カ年計画に基づき, 干しいも用温熱乾燥機とキュアリング庫を購入した。また, 女子学生増加に備えた南寮整備の予算要求を行った。園芸部では ICT教育のための環境制御測定装置を導入した。</p>	<p>(4)【継続】農業者等が運営している農場等を積極的に見学する</p> <p>(5)【継続】就農に役立つ資格取得に向け, 引き続き学生への働きかけを実施</p> <p>(6)【削除】経営実践プロジェクト活動(農産物販売実習Ⅱ)をとおして実践させる</p> <p>(7)【継続】関係機関や民間との協力により, 年度計画を作成し最新技術習得のための講義・実演を実施する。カリキュラム化の検討</p> <p>(8)【継続】学校全体で GAP を実践する。また, 露地野菜コースは, 維持審査をとおしてASIAGAPの農場運営を行う。ヨークベニマル坂東店での農大コーナーでは, ヨークベニマル GAP 基準に沿った青果物管理を行う。</p> <p>(9)【充実】農業大学校あり方検討を実施し, 教育施設を整備・充実させる計画作りを行う。</p>	<p>・各種の資格取得は農大生の時に取るが一番である。</p> <p>・農業高校では, 特に食品系統などで女子生徒が多くなってきているので, 農大でも女子に対する授業の充実等を図ってほしい。</p>	

重点 目標 番号	現 状	課 題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績 ※()は前年度実績	達 成 度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
2	4 農業を取り巻く国内及び国際環境は、ICTの活用やTPP, EUとの経済連携協定など著しく変化している。 本県農業及び農村を担う農業経営者等を育成するためには、実践的な教育・研修を行うための人材の育成が重要となってきている。	2 学生に対して的確な授業を行うために教職員が自ら資質向上に努める必要がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">目指すべき人</div> ◎学生を将来の農業経営者に育てるといふ情熱と使命感を持った人材 ◎校内外の関係者と連携し、学校の教育・研修に係る運営・企画ができる人材	2 教職員の人材育成	(10)【継続】農業法人経営者、女性農業者(女性農業士等)、農業関係者(農業経営士、青年農業士等)などによる特別講義を開催(目標:農業部3回、園芸部3回)。 (11)【継続】コミュニケーション能力を高めるための講演等を開催。また、農産物直売所での対面販売等を充実(目標:農業部1回、園芸部1回)。 (12)【継続】就農希望者に対して、進路学習の時間を利用した学習支援を実施(目標:青年等就農計画作成5名以上)。 (13)【継続】学生が自主的に学習できるよう、後援組織等の支援を受け、教材を購入。	(10)特別講義を5回開催した。 ・5/27 2年生対象就農促進講座(保田農業経営士) ・11/1 特別講義「女性農業者の魅力を伝える」(女性農業者2名参加) ・12/16 1年生対象の就農促進講座(経営士4名、女性農業士2名、青年士3名参加) ・10/11 特別講義「女性農業者の経営を学ぶ」(女性農業者2名参加) ・12/13 就農・進路相談会(経営士3名、女性農業士2名、青年士2名参加) (11) 5/14 より農産物直売所での対面販売を開始した。また、6/25「IBANOU 直売所オープニングセレモニー」を行い、マスコミへPR等により、来店者増に繋がり、コミュニケーション力を養成する機会に繋がった。 (12) 次世代人材投資資金準備型の希望者に対して、具体的な就農ビジョンを立て申請書の作成を支援した(1年生4名)。また、進路学習の時間を利用し、青年等就農計画書の作成支援を行った(2年7名:普通作2、露地2、果樹3)。 (13) 農業部では同窓会組織である「茨城県農道会」の支援を受け、パソコン2台を導入した。園芸部では農業用書籍の定期購入を実施した。	A	(10)【継続】農業法人経営者、女性農業者(女性農業士等)、農業関係者(農業経営士、青年農業士等)などによる特別講義を開催。 (11)【継続】コミュニケーション能力を高めるため、特別講義の開催、農産物直売所での対面販売等を充実。 (12)【継続】就農希望者に対して、進路学習の時間を利用した学習支援を実施。 (13)【継続】後援組織等の支援を受け、学生が自主的に学習できる教材等を購入。	
				1 職場における業務遂行を通じた資質向上(OJT) (1)【新規】指導者(各部長、各科長)は、定期的に被指導者(講師、主任、技師、主事)の勤務状況等を把握(1回/月)。 (2)【継続】指導者及び被指導者は、人事評価制度の業務達成状況記載シートにおいて1つの目標として「OJT」を設定。	(1)指導者は、業務連絡会議や教務会議において被指導者の勤務実態を把握した(業務連絡会議毎日、教務会議1回/月)。 (2)指導者及び被指導者は、「職場研修(OJT)等による指導者としての資質向上」を目標として設定した(4人)。		(1)【継続】指導者(各部長、各科長)は、定期的に被指導者(講師、主任、技師、主事、任用職員)の勤務状況等を把握。 (2)【継続】指導者及び被指導者は、人事評価制度の業務達成状況記載シートにおいて1つの目標として「OJT」を設定。	

重点 目標 番号	現 状	課 題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績 ※()は前年度実績	達 成 度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
2				<p>(3)【継続】管理者(学校長, 副校長)は, 全体の職場環境づくり向上に取り組むとともに, ヒアリング時等においてOJTの進捗管理を実施(ヒアリングの実施:3回以上/年)。</p> <p>(4)【新規】教育庁から派遣された職員を講師として, 主に学生指導を内容とした教職員に対する研修会を実施。</p> <p>2 自己研鑽の取り組み (1)【継続】各教職員は, 自分の資質向上のため, 自発的に, 自治研修所や民間企業が主催する国内外の社会経済情勢や行政(国, 県, 市町村)の施策, 能力開発等に関する研修会等に参加(研修会参加:1回以上/年)。</p> <p>3 「農業大学校指導職員研修計画」に基づく研修会への参加(全員, 1回/年) (1)【継続】基礎研修…赴任1～2年目職員 (2)【継続】専門研修…赴任2年目以降の職員 (3)【継続】総合研修…部長, 科長等</p>	<p>(3)管理者が人事評価制度ヒアリングにおいて, OJTの進捗管理を実施した(1回目:5/13～20, 2回目:9/12～19, 3回目:1/31～2/7)。</p> <p>(4)農業部において, 学生指導方法に関する研修会を実施した(12/25)。</p> <p>(1) 全国農業大学校協議会教育研究会, 県GAP指導者研修, SNS運用, いばらき農業アカデミー(スマート農業, ブドウ), 農作業安全大型特殊免許取得, 担い手育成(就農支援), 知財, デザインシンキング, 経営実践プロジェクト事例調査等へ職員が参加し, 職員の資質向上に取り組んだ(参加者:延べ34名)。</p> <p>(1)本校新任者研修, (国)農業者研修教育施設指導職員新任者研修に参加した(14名)。</p> <p>(2)関東ブロック農業教育施設協議会各担当者会議(教育方法, 実験, 経営, 学校運営), 県専門研修(普通作, 担い手, 果樹)へ参加した(15名)。</p> <p>(3)関東ブロック施設長会議・運営研究会, 管理者等研修(自治研)へ参加した(5名)。</p>		<p>(3)【継続】管理者(学校長, 副校長)は, 全体の職場環境づくり向上に取り組むとともに, OJTの進捗管理を実施(</p> <p>(4)【充実】学生指導・発達障害に関する教職員向け研修会を実施</p> <p>(1)【継続】各教職員は, 自分の資質向上のため, 自発的に能力開発等に関する研修会等に参加</p> <p>(1)【継続】本校新任者研修, (国)農業者研修教育施設指導職員新任者研修に参加</p> <p>(2)【継続】関東ブロック農業教育施設協議会各担当者会議, 県専門研修等へ参加</p> <p>(3)【継続】関東ブロック施設長会議・運営研究会, 管理者等研修(自治研)へ参加</p>	